

全国屈指の  
山城遺構



四季折々の  
美しい勇姿



# 竹田城跡

国史跡

TAKEDA CASTLE RUINS

竹田城は、播磨・丹波・但馬の交通上の要地に築城されました。築城当初の姿はよく分かっていませんが、石垣遺構周辺に存在する曲輪から判断しますと、現在の本丸・天守台の存在する山頂部から三方に延びる尾根上に曲輪を連続的に配置し、掘切や堅堀で防御性を高めていたものと思われます。

一方、織豊期以降の竹田城は、最高所の天守台（標高353・7m）をほぼ中心に置く石垣城郭となり、本丸以下南方には南二の丸、南千畳が、北方には二の丸、三の丸、北千畳を築いています。さらに天守台の北西部には、花屋敷と称する曲輪があります。ここは、主郭の中でも柄手の位置にあたるため、南北には向かい合った石壁を築き防御性を高めています。これらの石垣遺構周辺には、多くの石取場が確認されています。大堅堀や登り石垣なども確認され、倭城の形態に類似しています。

なお、竹田城の規模は、南北約400m、東西約100mを測り、今もなお当時の威容を誇っています。

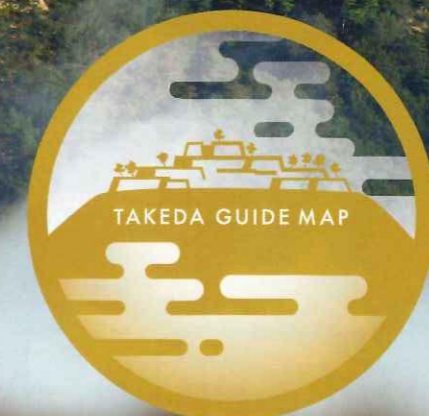
## 遺構

Remains

History 歴史

嘉吉元年（1441）、嘉吉の乱勃発後、山名氏と赤松氏に深刻な対立が生じていました。竹田城はこの時、赤松氏に対する山名氏方の最前線基地のひとつとして築城されたと伝えられています。以後、太田垣氏が7代にわたり城主となりますが、天正5年（1577）、羽柴（豊臣）秀吉の但馬攻略により、羽柴秀長が城主となりました。これ以降、竹田城は織豊方の拠点城郭として機能しました。

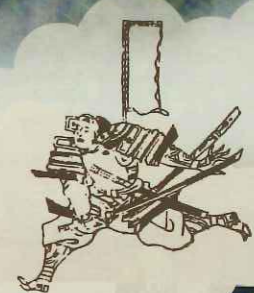
天正8年（1580）、羽柴秀長は出石・有子山城に入り、その後、竹田城は秀長の属将・桑山重晴に預けられました。さらに、天正13年（1585）、桑山重晴が紀伊和歌山城代に転じると、赤松広秀が城主となりました。



# 竹田散策 GUIDE MAP

A STROLL AROUND TAKEDA  
【ガイドマップ】

あの雲海のベールが覆う街を散策。



## 主な連絡先

朝来市役所  
〒669-5292 兵庫県朝来市和田山町東谷213-1  
TEL:079-672-3301(代表) FAX:079-672-4041

和田山町観光協会  
〒669-5292 兵庫県朝来市和田山町東谷213-1 西館2F  
TEL:079-674-2120/FAX:079-674-0130

情報館 天空の城  
〒669-5292  
ただだ城下町交流館内・朝来市和田山町竹田363  
TEL:079-674-2120 FAX:079-674-0130  
■開館時間:9時~17時(1月・2月は16時まで)・  
休館日:12月29日~1月3日

## QR Translator



## 竹田城跡 観覧料・期間・時間

個人	お一人様1回	期間	時間
大人(高校生以上)	500円	3月~5月	8:00~18:00 (最終登城17:30)
中学生以下	無料	6月~8月	6:00~18:00 (最終登城17:30)
団体(20人以上)お一人様1回		9月~11月	4:00~17:00 (最終登城16:30)
大人(高校生以上)	450円	12月~翌年1月3日	10:00~14:00 (最終登城13:00)
年間パスポート	1,000円		

※冬季の期間:観覧時間は、変更する場合があります。

## 朝来市役所

〒669-5292 兵庫県朝来市和田山町東谷213-1  
TEL:079-672-3301(代表) FAX:079-672-4041

# 立雲峡

但馬吉野

RITSUUNKYO



桜花爛漫の  
景勝溪谷



海抜757メートルの朝来山中腹にあり、無数の奇石・巨岩が点在するなか、樹齢300年以上と言われる老桜が自然美の妙をわめて群生しています。開花期間の長いのも特徴のひとつで、前面の竹田城跡、眼下の町なみと併せ、北近畿一番の桜の名所です。

現在は県立自然公園として整備され、一年中四季折々の美しい景色の中で竹田城跡を、ご覧いただけます。



# 天空の城の麓、竹田駅周辺と寺町通りを散策する歴史ロマンコースを巡ろう。

**point 1** 六体地蔵 (旭町)

但馬でもっとも古い六体地蔵のひとつとされ、中の一体に元禄7年(1694)に建立とある。向かい合う屋台蔵の山側の小道がかつての堤防であったといわれるが定かではない。



**point 2** おかち地蔵

「おかち」という娘が、かなわぬ恋に世をはかなみ出川と円山川の合流する淵に身を投げた。その淵を「おかち淵」と呼ぶようになり、薄命悲恋の純情をあわれみ、地蔵菩薩を祀った。今も旭町区により毎年7月12日に祭礼がおこなわれている。



**point 3** 諏訪神社

竹田城主太田垣光景は、築城のために苦勞した領民を励まし産業振興に努力したので領内は安定。そこで光景は、信州諏訪の城主土岐氏を通じて諏訪明神を勧請。竹田城の守護神とした。神社の祭礼は神嘗祭の10月16～17日に行っていたが、昭和41年の東京オリンピックの開会日にちなんで体育の日が制定されたことを機にこの日になった。



**point 6** 絹屋溝 (竹田川)

文政7年(1824)の大洪水をきっかけに、治水と防火を目的として当時上町に住んでいた絹屋治左衛門は私財をなげうって立案設計、整備を行った。総延長は320間(約580m)竹田川の南端、加納丘近くから町内を貫通し、下町はずれの円山川に抜ける用水路は、長く竹田の人の生活をささえ、今も「絹屋溝」と呼んで功績をたたえている。



**point 7** 旧木村酒造場 (EN)

木村家は、元は武田信玄の家臣であった飯尾氏で、武田氏没落のなか播磨加古川木村に移り住み姓を木村に改め屋号を加古屋とした。代々木村新左衛門を襲名。当時は造り酒屋として寛永2年(1625)に創業され大変栄えた。近年は、銘柄を「虎臥城」と称し、その建物も貴重な歴史的文化遺産のひとつである。



**point 8** 石橋 (えびす橋)

もともとは元播磨街道(生野街道)、恵比寿神社の前にあったもの。新町の若松屋平位久右衛門が宝永元年(1704)に架橋、寄贈したものと伝えられている。この橋の下あたりで、絹屋溝の流れが東西に分かれ、西流は寺町へ、東流は上町、旭町へ、観音町で合流し東町を経て下町で円山川に流れ出る。一般道路で使用されていた石橋としては但馬唯一とされている。



**point 9** 表米神社

一の宮表米神社と称する。久世田の依米神社を勧請。本殿の欄間や神門の大扉の彫刻は京都の名工斎藤の作。祭神である表米宿禰命は初めて但馬国造に任ぜられた大牟坂王(おおたむさかのう)の9代目となる。境内に相撲棧敷(県指定文化財)があり、類似の棧敷が山口県にあるが、全国的にも珍しい。棧敷の席順を記した絵図が残っている。 ※県登録文化財



**point 10** 善證寺【ぜんしょうじ】

浄土真宗本願寺派。建武元年(1334)創建で、もともとは川向の金梨山麓にあったが、慶長の大洪水で地形が変わってしまった中で、僧玄哲の努力の元、慶安5年(1652)に現在の場所に再建。大檀家平位氏はもともと赤松の家臣であり、竹田城の滅亡後、城に残っていた建物群ならびに自邸を寄贈した。



**point 11** 常光寺【じょうこうじ】

真宗大谷派。文禄3年(1594)本願寺第12世教如上人の但馬開教の命により、金梨山ふもとに祐教上人が草庵を創設。慶長15年の大火災で焼失後この地に移転。境内には、竹田城初代城主太田垣光景公の供養塔がある。黄色の壁には、白の五条引がある。 ※県登録有形文化財



**point 12** 常光寺 石橋

駅裏の4寺門前には、それぞれ江戸時代の石橋が架かっている。常光寺の石橋は宝永4年(1707)架橋。手記路のあるものは但馬最古の石橋。



**point 13** 勝賢寺【しょうけんじ】

浄土真宗本願寺派。開基は行心上人(1571-1656)で、竹田城廃城後1664年ごろに、平位善右衛門屋敷跡のこの地に移転。後に太田氏により再建。境内には、第9代城主桑山重晴の長男一重夫婦の墓(五輪双塔)があり夫婦の位牌、古文書も残されている。



**point 14** 法樹寺【ほうじゅじ】

浄土宗知恩院派。天正6年(1578)河原町(現在の東町)に創建。慶長11年(1606)竹田城最後の城主赤松広秀公の居住地に生野代官所の寄進を受け移転。もともとあった薬師堂は竹田城の樓閣を用いて建立されたといわれているが、平成16年の台風災害により崩壊。薬師如来像のみ本殿に安置されている。赤松広秀夫婦の御簾、位牌が残されている。本堂の裏側には赤松広秀の供養塔がある。



**point 15** 松井巡査の碑

兵庫県殉職第1号松井巡査の碑。島根県土族二等巡査(現在では警部補)、警察官宅と知らず自宅に押し入った強盗と格闘し31歳で命を落とした。優しく仕事熱心で竹田の住民に人気があった。今も警察官の参拝が絶えない。



**point 16** 太田雅義追慕碑

太田雅義(六衛門)は文久3年(1863)の生野の変にかかる勤王の志士。竹田出身で、農兵組織の組立にも尽力。代官所占拠の際、代官所がひそかに要請していた出兵要請を思いとどまらせるため、総帥澤柳の親書と代官所締武井三郎の添書をもって仙石石藩に出示したものの捉えられ、京都の六角獄中にて43歳で病死。明治36年に従五位が追贈された。



**point 17** 殉国の碑

第2次世界大戦戦死者210人を祀るもので虎臥城の山麓地忠魂碑広場の一角を整備して昭和31年(1956)に建立された。



**point 18** 忠魂碑

日露戦争 明治37～38年(1904～5)の戦死者15名を祀るもの。その裏には、西南戦争明治十年(1877)戦死者藤本氏芳蔵(加都)の墓がある。



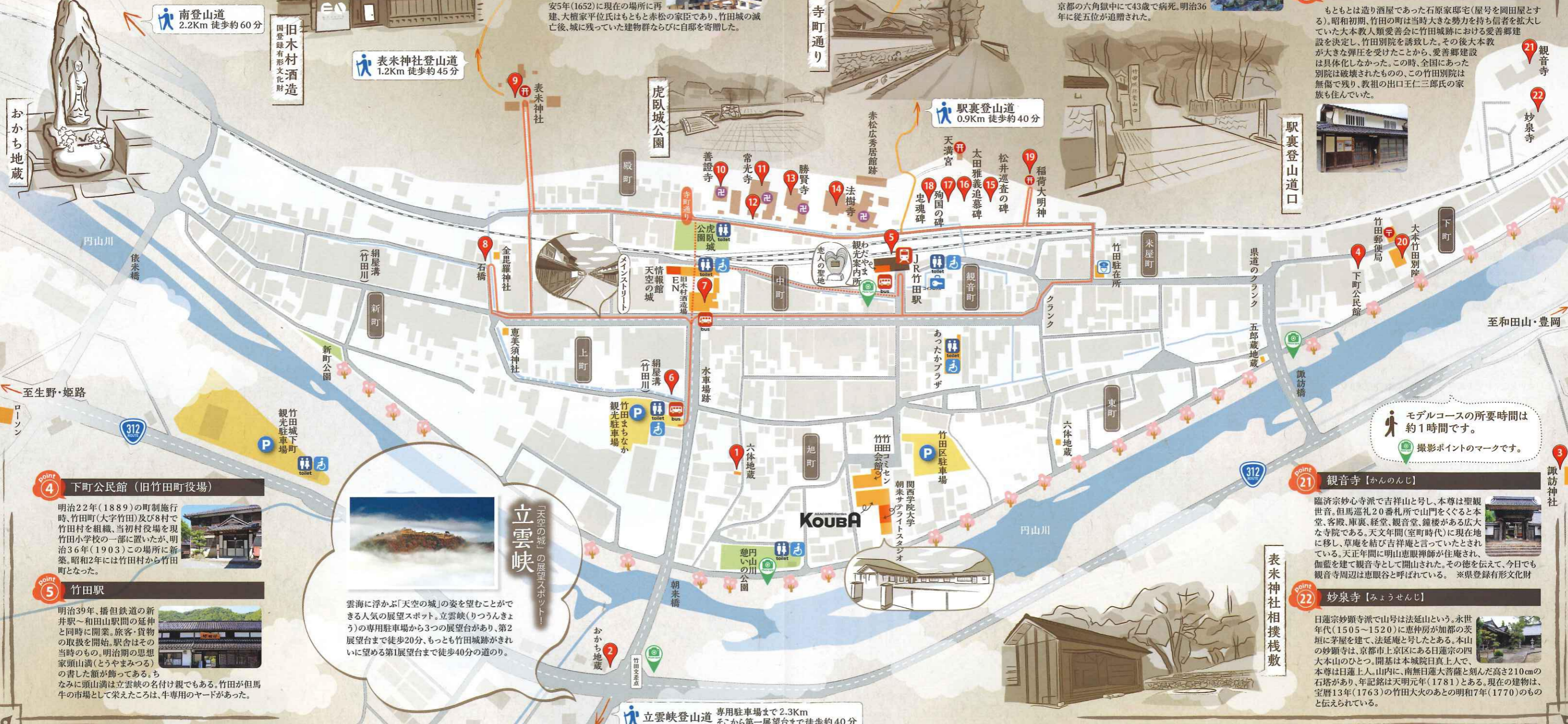
**point 19** 稲荷大明神

慶長年間の創建。伏見稲荷を勧進して祀ったとされる。慶応4年に、下真町とよばれていたこのあたりで発生した「ええじゃないか」のきっかけとなった、神様からの御下がりと言われる子宝銀が奉納されている。本殿に登る花崗岩の石段は、大正9年に造られたもので、旧道は今もその脇に残されている。



**point 20** 大本竹田別院

もともとは造り酒屋であった石原家邸宅(屋号を岡田屋とする)。昭和初期、竹田の町は当時大きな勢力を持ち信者を拡大していた大本教人類愛善会に竹田城跡における愛善郷建設を決定し、竹田別院を誘致した。その後大本教が大きな弾圧を受けたことから、愛善郷建設は具体化しなかった。この時、全国にあった別院は破壊されたものの、この竹田別院は無傷で残り、教祖の出口王仁三郎氏の家族も住んでいた。



南登山道 2.2Km 徒歩約60分

表米神社登山道 1.2Km 徒歩約45分

駅裏登山道 0.9Km 徒歩約40分

立雲峡登山道 専用駐車場まで2.3Km  
そこから第一展望台まで徒歩約40分

モデルコースの所要時間は約1時間です。  
撮影ポイントのマークです。

立雲峡  
「天空の城」の展望スポット！



雲海に浮かぶ「天空の城」の姿を望むことができる人気の展望スポット。立雲峡(りつうんきょう)の専用駐車場から3つの展望台があり、第2展望台まで徒歩20分、もっとも竹田城跡がきれいに望める第1展望台まで徒歩40分の道のり。

**point 4** 下町公民館 (旧竹田町役場)

明治22年(1889)の町制施行時、竹田町(大字竹田)及び8村で竹田村を組織。当初村役場を現竹田小学校の一部に置いたが、明治36年(1903)この場所に新築。昭和2年には竹田村から竹田町となった。



**point 5** 竹田駅

明治39年、播但鉄道の新駅和山と竹田間の延伸と同時に開業。旅客・貨物の取扱を開始。駅舎はその当時のもの。明治期の思想家頭山満(とうやまみつる)の書いた額が飾ってある。ちなみに頭山満は立雲峡の名付け親でもある。竹田が但馬牛の市場として栄えたころは、牛専用のヤードがあった。



**point 21** 観音寺【かんのんじ】

臨済宗妙心寺派で吉祥山と号し、本尊は聖観世音。但馬巡礼20番札所と山門をくぐると本堂、客殿、庫裏、経堂、観音堂、鐘楼がある広大な寺院である。天文年間(室町時代)に現在地に移し、草庵を結び吉祥庵と言っていたとされている。天正年間に明山恵眼禅師が住庵され、伽藍を建て観音寺として開山された。その徳を伝えて、今日でも観音寺周辺は恵眼谷と呼ばれている。 ※県登録有形文化財



**point 22** 妙泉寺【みょうせんじ】

日蓮宗妙顕寺派で山号は法延山という。永世年代(1505～1520)に恵仲房が加都の茨垣に茅葺を建て、法延庵と号したとある。本山の妙顕寺は、京都市上京区にある日蓮宗の四大本山のひとつ。開基は本城院日真上人で、本尊は日蓮上人。山内に、南無日蓮大菩薩と刻んだ高さ210cmの石塔があり、年記銘は天明元年(1781)とある。現在の建物は、宝暦13年(1763)の竹田大火のあとの明和7年(1770)のもので伝えられている。



表米神社相撲棧敷

諏訪神社

観音寺

妙泉寺